

新しい年を迎えて

公益社団法人日本包装技術協会

専務理事 越野 滋夫

平成29年の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

当会人材育成事業の中核をなす「包装管理士講座」は協会創立3年目の1966年にスタートいたしました。以来、毎年欠かす事なく開催し、昨年51期生400余名の包装管理士を包装産業界に送り出しました。包装管理士として協会が認定した包装管理士は総数13,073名にのぼり、わが国の産業界の包装部門を支えております。

しかし、わが国の製造業は経産省の統計によれば、400万社にもおよびその従業員数は、4,000万人とも言われています。その8%が包装・物流に携わっていると仮定すると320万人になります。言わば、包装管理士は企業の包装スペシャリストとして、それぞれの事業所の包装リーダーになり、企業の包装部門を支える責務を自覚願いたいと思います。

実は私も20数年前に事務局を担当しながら、包装管理士講座を受講いたしました。企業での実務経験がないので、レポートの作成には苦労いたしましたが、POSシステムと包装についてレポートをまとめ、怖い研修委員の先生方の前で面接を受け、なんとか合格することができました。わずか数か月の短い間の研修でしたが、受講者との交流を通して、包装について熱く語りあった事がよい思い出になっております。

さて、次回52期の包装管理士講座の案内パンフも2月には出来上がりますが、おそらく募集開始と同時に定員（約400名）になると思われます。今般の激変する産業界を見ると「包装」の役割はますます重要度を増しております。私は昨年、中国、台湾、韓国、タイに渡航し、各地の包装団体と親睦交流を図る為に、訪問いたしましたが、いずれの国も「包装」と「物流」に関心が深い事が分かりました。「包装」も「食品包装」「安心・安全」「品質保持」がキーワードでした。また、「物流」はIoTとコールドチェーン、とりわけ中国はコールドチェーンと「包装」「物流」に関心が深く、わが国の包装技術、物流技術への学習意欲が強く、わが国の関連団体との交流を望んでいる事が良く分かりました。

日本包装管理士会はその名の通り、包装のプロフェッショナルの集団でございます。日本包装技術協会もわが国の包装技術の国際化の推進を一つのキーワードに、日本包装管理士会の皆様方のご支援ご協力を得て、共に様々な「包装」の課題に取り組んで行きたいと思っております。

最後になりましたが、本年が皆様方にとりまして一層飛躍の年でありますようお祈り申し上げまして、年頭のご挨拶といたします。

《INDEX》

本部報告	2
日本包装管理士会 選定 2016年包装界・10大ニュース	3
支部だより	4



PACKAGING INFORMATION
包装技術者の連携と協力をめざす

日本包装管理士会 会報
No.122

ipp
news

ipp news
2017年1月25日発行
編集人／荒井拓哉
発行／日本包装管理士会
東京都中央区築地4-1-1
TEL 03-3543-9250

会員の皆様へ 年頭のご挨拶

日本包装管理士会 会長 山田 孝志

明けましておめでとうございます。

日本包装管理士会会長の山田孝志です。日本包装管理士会は半世紀を過ぎて51年目を迎えます。会長はchangeしましたが、会の方針まで変わるわけでありません。本年も例年どおり日本包装管理士会へのご理解とご支援のほどよろしくお願い致します。

さて、今年の干支は酉年ということで、夜明けとともにコケッコーと鳴くことから縁起が良い年とされ、また、「とりこむ」にかけて商売につながる干支とも言われています。鳴き声とともに商売繁盛で景気の良い年になることを祈念致します。

昨年を振り返ると、イギリスのEU離脱“Brexit”やアメリカ大統領選挙でトランプ現象が起きるなどポプリズムが台頭しました。いずれもエコノミストの予想に反し、英国経済はポンド安から内需が伸びて、米国は将来のインフレ予想から膠着していた経済に活気が戻り、ドル高円安となり、日本にもプラス要因に動きました。国内では熊本の大地震や北海道を台風が直撃するなど自然現象に翻弄された年でした。

そんな中で、ポケモン現象が起きてゲームは室内で一人ですするというオタクのイメージから一変して、アウトドアでアイテムのキャラクターを皆（中には家族そろって）で探すという現状が見られました。スマホを見ながら歩き回ることには危険もありますが、新しい技術が新しい楽しみ方を提供した成功例と言えるでしょう。また、「君の名は」のアニメーション映画が話題となり、若い人たちがロケーション場所を巡る“聖地巡礼”という現象が国内でも起きていて、地方の活性化にもつながる効果を生み出しました。地方創生が言われて久しいですが、名所旧跡だけが観光資源となるものではなく、新しい価値観で見ると普段見慣れている風景も経済効果を生み出す原石になるものと分かりました。

現在の日本の包装技術は高いレベルにあり、新技術を生み出すのは困難とも思える時代ですが、違った見方や新しい価値観で見ると、使い慣れている素材から新しいニーズを生み出すことにつながるかも知れません。知識だけでは新しいアイデアは生まれませんが、知識無くしてはイノベーションも成り立ちません。最新の情報収集の場として、包装管理士の自己研鑽の場として、日本包装管理士会の活動が役立つことを望みます。

本年も皆さんと皆さんのご家族のご健康と、皆さんの会社の発展を祈念して、新年のご挨拶と致します。



「2017年包装界合同新年会」会場にて
IPPのメンバー



日本包装管理士会 選定 2016年包装界・10大ニュース

1) パリ協定発効

2015年の気候変動枠組条約第21回締約国会議（COP21）において、京都議定書に続く2020年以降の新しい温暖化対策の枠組みとして「パリ協定」が採択された。協定発効には55カ国以上が批准し、世界の温暖化ガス排出量の55%に達する必要があったが、アメリカ、中国などが早期に参加を表明し、2016年11月4日にわずか1年足らずで発効された。日本は批准が発効に間に合わなかったが、11月8日に批准した。

2) フランスでプラスチック製使い捨て容器禁止の法律制定。レジ袋の配布も禁止。

世界初となる「プラスチック製使い捨て容器や食器を禁止する法律」がフランスで制定された。施行は2020年1月1日からの予定。使い捨て容器を作る企業はそれまでに、使い捨て容器や食器を、微生物によって分解され家庭用生ゴミ処理機で堆肥にできるもの、もしくは原材料の一部が生物由来の資源を使っているものに変えなければいけない。環境保護活動家や団体は、この法律を歓迎しているが、反対の声を上げる人々もいる。

この法律制定とは別に2016年7月1日から小売業における使い捨てのプラスチック製レジ袋の使用禁止にした。また、2017年1月1日以降生鮮食品包装用など、レジ袋以外の袋にも拡大適用される。対象となるのは使い捨てのプラスチック袋。青果店などではいまだに利用できるものの、肉や魚を包むための薄いものも含めて、2017年1月にはすべて禁止となる。以後は堆肥に使える生分解性のバッグを野菜やフルーツを包むための薄い袋として使う予定。

厚さ50ミクロン以下で10リットル以下のものや、生分解性プラスチックを使ったものは規制の対象外だが、コストが上がる可能性があるため店舗では利用できないかもしれない。

3) 機能フィルム製品「スパッシュ®」農林水産大臣賞の栄誉

三井化学東セロ株式会社は、鮮度保持フィルムの製造販売による食品ロス削減の取り組みが評価され、一般社団法人日本有機資源協会が主催する「第3回食品産業もったいない大賞」で農林水産大臣賞を受賞した。同社のスパッシュ®は、青果物等を長持ちさせる効果のある鮮度保持フィルムで、「しおれ」や「変色」等の鮮度の低下を抑制する。食品の鮮度を伸ばすことを可能にし、流通段階や家庭での食品ロスの削減に貢献した点が高く評価され普及拡大が期待される。

4) 乳飲料の容器が変化・飲料用紙容器の開発が加速

飲料用紙容器を中心に機能性の向上が進んでいる。環境面ではリサイクル適性向上に向け易解体性（上部を胴部から簡単に切り離せる・オルカット）タイプや紙層と内装フィルム層を剥がして分離できるタイプが登場。使い易さでは、乳飲料紙容器に長年ゲーブルトップ（屋根型紙容器）が使用されてきたが、注ぎ口から肩部までが樹脂製で開けやすく、広口キャップで注ぎ易く再封できる紙製ボトル（テトラ・トップベース）が乳飲料メーカーの採用が増えている。また、高デザイン性と機能性を持つ特殊形状のチルド飲料紙容器（ピュアパックカーブ）やレトルト対応できる紙容器（テトラ・リカルト）の日本市場（調理食品、総菜等）での本格導入など高付加価値、差別化、機能性向上等の紙容器が続々登場している。

5) UDと環境に配慮した新詰め替え容器の開発相次ぐ

公益社団法人日本包装技術協会が選考する木下賞の「花王ラクラクecoパック」や日本パッケージングコンテスト経済産業大臣賞「ラサーナ 詰め替えパック」等、詰め替え容器

で詰め替えやすさを追及した商品開発が増えている。「花王ラクラクecoパック」は、粘度の高いシャンプー等の詰め替えで、高齢者や環境に配慮した軟包材の容器でシニアなど握力の弱い人でも簡単に開けられるキャップや、上下にマチを設けたボトルのようなスリムで片手でもしっかり持てる形。本体容器の真上から逆さにセットしてこぼさず、素早く詰め替えができる。環境面でもコンパクト設計で使用面積を小さくかつ薄肉化、キャップの樹脂量削減とスパウトにバイオPE約50%を導入しCO₂削減にも貢献。超高齢社会に対応する容器包装に期待が集まっている。

6) 新興国の経済減速や反グローバル化が高まり、世界貿易量が大幅下方修正される。

WTOの2016年の世界貿易量予測は、4月時点で前年比+2.8%が9月時点で+1.7%と、リーマン・ショック直後の09年以来的の低い伸びに修正された。2017年の世界貿易量もはかばかしい回復は見込めない。輸出企業を通じて包装業界への影響が見込まれる。

G20による貿易制限措置は、09年に月平均13件であったが、直近は22件まで増加。英国の欧州連合（EU）離脱（Brexit）、EU加盟各国内での反EU勢力の拡大、クリントン・トランプ両米大統領候補ともに環太平洋経済連携協定（TPP）に反対を唱えるなど、格差拡大や移民・難民問題などに根ざした反グローバル化・保護主義の勢いが増大している。

7) 業界初、透明酸素吸収包材が切り餅の個包装フィルムに採用

酸素吸収包材（オキシデック）はバリア基材フィルムとシーラントフィルムを酸素吸収機能を有する接着剤で貼り合わせた多層構造。特徴として内容物の視認が可能、低湿度やチルド環境下でも酸素を吸収でき低臭性にも優れている。個包装フィルムに使用することで開封直前まで脱酸素状態を維持でき、個包装単位での長期保存が可能。今後、食品分野以外に医薬品、化粧品等幅広い用途に展開が期待される。

8) 容器・包装で遮光機能を付与した開発進む

容器では緑色遮光ボトルをドレッシング用途に採用。光の影響による油の酸化を従来ボトルより41%軽減できている。また包装ではアルミを使用しない光遮断フィルムが開発されている。同包装では特殊なシーラントフィルムを積層し、アルミ箔同等の遮光性を持たせ、紫外線・可視光線を99.9%カットできる。レトルト食品、電子レンジ用途として対応でき幅広い用途が期待できる。

9) 「TOKYO PACK 2016」盛況裡に閉幕

東京国際包装展は2016年10月4日～7日の4日間、東京ビッグサイトで開催された。基本コンセプトは「伝えよう、NIPPONの包装力を」。参加670社・団体の規模で、関連の展示が増加。海外出展も前回は上回った。入場者数も184,677人と前回は大きく上回り、開催50周年の節目の「TOKYO PACK」は盛況裡に閉幕した。またJPI関連包装4団体が協力して集中企画展示を行い、IPPのブースでは創立50年のあゆみと、イメージキャラクターの「つつむ君」をパネルで展示し、国内外の来場者にご覧いただいた。

10) 日本包装管理士会創立50周年

創立50周年を迎えた日本包装管理士会は6月10日、東京・飯田橋のアグネスホテルで記念セミナー及び記念式典・パーティを執り行った。包装業界の発展に寄与する日本包装管理士会を目指し、会員の自己研鑽のフォローとして研究会や見学会を開催し相互の情報交換を継続実施している。

北海道支部だより ●●●

北海道支部長 酒井 幸彦 (36 期)

新年明けましておめでとうございます。

IPP会員の皆様には元気で過ごしの事と思います。

北海道は例年よりひと月程早く初雪が降り寒い日々の毎日を過ごしています。

北海道経済にとって昨年は台風が1ヶ月に3回も上陸し、農作物に甚大な被害をもたらし、更に物流の基幹道路も未だに厳しい状況が続いております。

又、水産業もサンマ、鮭等も昨年の水揚げを下回り携わる業者が影響を受けており、海水温の高さが関係しており地球温暖化が進んでいると思われます。

我々包装に携わる者としては積極的に環境に優しい包装を常に念頭に置いて取組んで行かなければと思います。

【交流会】

6月10日に50周年記念式典が挙行され、出席し各支部長との交流を行い、非常に有意義な懇親となり、今後も今回のような交流の機会が継続できるよう本部にお願い致します。又10月28日には本部山田会長、道明副会長及び関東支部の古平支部長、荒牧監事の4名が北海道視察旅行との事でサッポロビール園にて懇親会を行い、北海道支部からは支部長の私と監事の曾田氏、JPI事務局の小寺氏が出席し親交を温めました。

【新包装管理士合格証書授与式】

11月10日に第51期包装管理士の合格証書授与式及びレポート発表会をホテルニューオータニイン札幌にて開催、15名の新包装管理士が誕生いたしました。今後の

活躍を祈念したいと思います。



新包装管理士合格証書授与式



レポート発表会

【包装懇話会開催】

今年度の懇話会は「包装商品化で考えること」をテーマに東京聖栄大学食品学科特任教授の佐々木敬卓氏を招き11月10日に開催し講演していただきました。

出席者一同は熱心に聞き入り耳を傾けておりました。

2017年は干支で酉年です。IPP会員の皆様及び所属企業様が大きく羽ばたきますようご祈念申し上げます。

東北支部だより ●●●

東北支部 事務局長 斎藤 昇 (13 期)

日本包装管理士会は昨年、50周年を迎え、記念式典の開催、会長、事務局長の交代などがあり、本部や関東支部は、例年と違い慌ただしい1年ではなかったでしょうか。東北支部は昭和60年設立ですので32年目の新年を迎えました。

さて、例年通り、第51期包装管理士講座の報告です。

仙台会場では6月22日～7月8日に材料科目・専門科目の講習を行い、15名が受講しました(定員15名)。10月24日(月)には合格者の包装論文発表、合格証書授与式、新包装管理士を囲む会を行いました。

包装論文発表は、合格者の中から次の5名の方に発表していただきました。



51期生による包装論文発表

P5に続く→

P4から続く→

1. 「ラミネート三方シール袋の餅用包装のフィルム構成提案による包装改善」
福助工業（株） 宮城慎太郎氏
2. 「玄関ドアの緩衝剤見直しによる包装改善」
YKK AP（株） 吉川 赳人氏
3. 「発泡スチロール製ドラム缶専用蓋の開発」
トーヨー工業（株） 加賀 幸夫氏
4. 「玄関ドアのコルパットを用いた包装改善」
（株）タナックス 加藤 博氏
5. 「横帯印刷を採用した段ボールで店頭にディスプレイ出来る箱の開発及び開梱作業の簡素化を目指した箱の提案」
（株）トーモク 工藤 敦司氏



合格証書授与式



新包装管理士を囲む会で「乾杯！」



新包装管理士を囲む会・集合写真（参加者は他に4名）

上記発表後、JPI本部より西田常務理事をお迎えして合格証書授与式を行い、場所を7階から4階に移動、新包装管理士を囲む会を行い、親睦を深めました。

なお、平成29年の東北包装界新年名刺交換会は本部と同日の1月11日です。

中部支部だより

中部支部長 岡部 智（27期）

新包装管理士を祝う「第51期包装管理士交流懇親会」

寒波が日本の各地を襲っており、寒い、寒い本格的な冬がやってきました。今やこの世界、トランプ氏がアメリカ45代の大統領に就任するなど予測しづらい状態になっています。アメリカ合衆国、EUどこへ行く。また日本の「アベノミクス」どこへ行くと行ったところでしょうか。

さて、平成28年10月28日（金）メルパルク名古屋3階「ダリアの間」で第51期包装管理士合格証書授与式を開催しました。今期の受講者は輸送包装34名、生活者包装34名の合計68名であり、そのうち合格者は前期受講者を含め68名でした。授与式の後、交流懇親会が第51期包装管理士とIPP中部支部会員合わせて86名が一堂に会して開催されました。私のあいさつの後、来賓として来て頂いた愛知県産業技術センターの児島センター長の祝辞に続いて、JPI越野専務理事の乾杯の後、新旧包装管理士が和気あいあいの中で交流懇親会が進み、大変楽しい会となりました。



和気あいあいの交流懇親会

第56回包装技術研究大会中部大会

平成29年2月21日（火）、愛知県産業労働センターで第56回包装技術研究大会中部大会の開催を予定しています。この大会は今期で56回を迎えるJPI中部支部の伝統ある研究大会です。とくに、包装管理士講座における優秀論文の発表の場として開催しています。また、今回は特別講演として損害保険ジャパン日本興亜株式会社の生貝友哉様による「保険会社からみた物流損害の防止」を予定しています。

関西支部だより ●●●

関西支部 細田 基則（13期）

関西支部は「広く会員の皆さまに交流の場を提供する」という活動テーマのもと、様々な活動が続けていますが、会員の皆さまはもとより一般の包装関係者の参加も多く、広く交流と情報交換の場所となっています。その活動内容を紹介します。

会員の皆様にはその都度ご案内をお送りしています。興味のあるテーマがありましたら是非ご参加ください。その中でもユニークなのが、“女性だけで包装を考えるかい!”の「W会」との合同研究会です。勉強の後の楽しみは、やっぱり懇親会。華も実もある研究会です。

本稿の後にW会主宰の三笠産業(株)遠藤明子様をお願いして、W会の活動内容についてのご紹介を掲載していますのでご覧ください。

◆第7回W会との合同研究会 7月29日

「インドネシアの包装市場の動向について」

講師：(株)東洋紡パッケージング・プラン・

サービス 羽馬友子氏

「不織布の主な製造、特徴および包装材への用途事例」

講師：日本不織布協会 顧問 土谷英夫氏



「華の懇親会」



「実の研究会」

◆ミニセミナーの開催

◇第29回 9月23日

「消臭機能を有するガラス材の開発について」

講師：石塚硝子(株)研究開発センター 石川綾子氏

「箔押しは貴婦人であれ!」

講師：(株)サカエ彫巧社 代表取締役 舩重聖長氏



「華の講師」



「実のセミナー」

◇第30回 12月7日

「バイオマス由来のバリヤシートPLANTIC」

講師：(株)クラレ フィルム販売部 片岡直樹氏

「パッケージトピックス2016年」

講師：凸版印刷(株)マーケティング部 上森功規氏



「実のセミナー」



「味の懇親会」

◆見学会&セミナーの開催

◇秋期見学会&セミナー 11月28日

①見学会 パイロットインキ(株)津工場

②セミナー：「熱変色性材料 メタモカラーとその応用」

講師：パイロットインキ(株)取締役第二開発部長

柴橋裕氏



「パイロットインキ津工場にて」



「フリクション160万本達成」



「フリクションの応用展開」

『W会活動紹介』

●ローカル勉強会を開催しました！

W会代表 三笠産業(株) 遠藤 明子

女性を中心に活動しているW会は、今年で結成10年目を迎えています。単独の企画は、年に1～2回の見学会や勉強会ですが、その他に関西支部ミニセミナーへの参加や合同の研究会を企画させていただくことによって、交流を図っています。

今回は、11月に実施しましたローカル勉強会をご紹介します。

この勉強会は、業務に同じ悩みを持つメンバーが、自分の抱えている疑問や困り事を持ち寄り、意見や情報を交換する中で、企画された勉強会です。今回は、対象となる業務範囲が狭かったため、5名のローカルな勉強会として開催されました。テーマは、プラスチック製の食品用容器包装を輸出する際の安全衛生確認に関わる事項でした。食品や医薬品用の容器包装を他国で販売する場合には、販売先国の安全衛生関係の規制に適合させる必要があります。このような規制への適合や安全衛生管理業務に関わるメンバーが、お互いの業務上の悩みや疑問を交換する中で、今回のローカルな勉強会が開催されました。この業務の担当者には、規制の理解だけではなく、原料として使用する樹脂についての化学の知識が必要となってきます。しかし、必ずしも化学の専門教育を受けた人が担当しているというわけではないため、実務で苦勞する人があらわれることになります。そのようなメンバーのために「文系でもわかる化学入門」と称して、一般的なセミナーでは聞くことができない、実務に直結した内容の勉強会を企画することになりました。

まず、日本の規制とEU等の海外の規制方式について、基本的なルールを確認しました。その後、本来の目的である化学の勉強に移りました。規制については、W会メンバーがそれぞれの業務の中で得た知識を確認しましたが、化学については、容器包装と安全衛生に深い知識があり、かつ、高分子化学をわかりやすく解説していただく必要がある、という厳しい条件で相談させていただき、今田克己講師（今田包装技術企画 代表）にお願いすることになりました。勉強会には、参加者から多くの事前質問が寄せられました。いずれもメンバーさんが実務の中で苦勞されている様子が窺えるものばかりでした。寄せられた質問は、今田講師に丁寧にわかりやすく解説していただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

勉強会の後には、講師を囲んでの交流会で、楽しく盛り上がりました。



懇親会の様子

関東支部だより ●●●

第51期包装管理士合格証書授与式 (東京会場)

関東支部 事務局

2016年10月21日(金)、秋葉原UDXにおいて第51期包装管理士 東京会場合格証書授与式が行われました。第51期包装管理士の合格者は、全国で408名、今期を含めた包装管理士有資格者総数は、13,073名となりました。東京会場では、195名の新包装管理士が誕生しました。

合格証書授与式では、日本包装技術協会・越野専務理事から、代表者に合格証書が授与され、優秀合格者が表彰されました。東京会場での優秀合格者は、金賞：王子コンテナ(株) 広瀬高淑さん、銅賞：セイコーエプソン(株) 竹下三四郎さん、四国化工機(株) 岸貴之さん、王子コンテナ(株) 乾剛史さんです。

その後、日本包装管理士会山田孝志会長の来賓祝辞があり、古平篤関東支部長による乾杯の音頭によって懇親会が行われました。懇親会は、新包装管理士に包装管理士会理事のメンバーが加わり、包装管理士や包装管理士会について、大いに語り合いました。



越野専務理事から代表者へ合格証書を授与



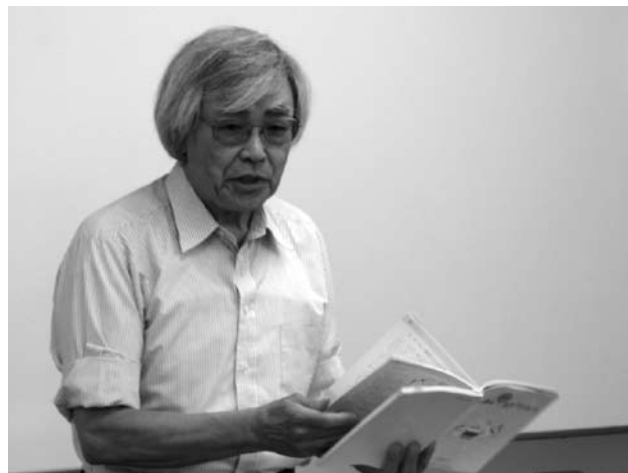
優秀合格者の皆さん

「スキルアップセミナー 2016」開催

関東支部 事務局

スキルアップセミナー 2016は、「食べ物をやさしく包むひみつ」をテーマとして、2016年10月13日(木)・11月18日(金)・12月15日(木)に、3回連続して集中的に行われました。講師は、HIRO 包装設計研究所 所長の佐々木敬卓氏に登壇いただき、食品の安全・安心を確保するために、包装や食品企業はどのようなことを考えて包装商品化しているのかを、商品の原料～製造・加工～充填・包装～物流～使う・食べる～廃棄・リサイクルなど、あらゆる角度から、講師の著書『食べ物をやさしく包む「ひみつ」』や、講師の豊富な経験をまとめたデータを使用してわかり易く解説していただきました。

第1回は食品をダメにする原因の解説や、ペットボトルを用いた充填温度と容器の変形の実験など、食品包装の基礎を解説していただきました。第2回は具体的な食材と包装材の話が中心で、第3回は包装商品化で考えなければならないことを、輸送を含めて解説をしていただきました。参加者は19名で熱心な勉強会となりました。



熱のこもった佐々木講師の講義



大演担当理事の司会で進行!

2016年「第2回包装研究会」を開催

関東支部 副支部長 道明 誠（23期）

2016年11月25日（金）、㈱文昌堂10F貸会議室において、2016年第2回包装研究会を開催し、会員・講師を含め14名の参加がありました。

講師は株式会社プラグ 代表取締役小川 亮様

テーマ名は「2016年パッケージデザイントレンドと売れるデザインの作り方～パッケージデザイン8万人調査から見えるもの～」をご発表いただきました。日本で唯一のパッケージデザインランキングと未公開の最新調査結果を御披露いただきました。

また、ランキング検索ソフトのご紹介や「デザインで考える」という思考方法の説明、売れるためには何をしたらよいのか？といったパッケージ開発のお話をお聴きすることができました。

意見交換会では、聴講者から次々と質問が出され、講師よりお一人ずつ丁寧なご回答をいただくことができ、また会終了後も、各人名刺交換するなど大変有意義な研究会となりました。



小川講師のパッケージデザインの講義

関東支部・北海道視察を開催

関東支部長 古平 篤（25期）

関東支部は10月28日（金）～30日（日）、北海道視察を開催し、4名が参加しました。

10月28日早朝、羽田空港に集合し、千歳空港に向かいました。千歳空港でJR線に乗り換え、最初の目的地である小樽に向かいました。小樽で昼食をとってから余市に向かう予定でしたが、列車事故の都合で余市に直接向かいました。

余市ではニッカウキスキー余市蒸溜所を見学しました。

古い建物が大きな敷地に建っており、ウキスキーの蒸留設備などを案内付きで見学した後、試飲等などを行いました。

その後、札幌のホテルまで移動し、北海道支部との情報交換会の会場であるサッポロビール園に向かいま

した。サッポロビール園では北海道支部の酒井支部長、曾田監事、JPIの小寺事務局長が出席され、ジンギスカンとビールで乾杯、情報交換を行いました。

2日目は旭山動物園と美瑛の観光を楽しみました。旭山動物園のある旭川では、この季節で早くも雪が積もっていました。

3日目は支笏湖を訪れ、千歳空港から帰途につきました。



ニッカウキスキー余市蒸留所



IPP・JPIの北海道支部と情報交換会

IPP忘年会開催

関東支部 笹木 憲一（18期）

12月15日（木）18：30から「うすけぼーり比谷店」において、本部・関東支部共催の忘年会が開催されました。20名の会員が参加し、JPI園山理事に乾杯の発声をいただき、山田会長の挨拶の後、今年行った事業、来年の事業計画、各自の情報交換などを語り合い、あっという間に予定の時間が過ぎました。古平関東支部長から力強い来年の抱負の言葉があり、閉会しました。



今年も頑張りました また来年！

IPP写真研究会 活動報告

IPP写真研究会会長 荒牧 哲

2016年7月23日(土)～24(日)群馬水上撮影旅行:
昼に蕎麦を生姜や塩で食し撮影を開始、沼田城跡、
吹き割の滝、吉祥寺を撮影し、蔵元に立ち寄り、水上
温泉に宿泊。翌朝、ロープウェイとリフトで天神峠ま
で登り、谷川岳・朝日岳、高山植物などを撮影。昼に
蕎麦を「かも汁」につけて食べ、好天に恵まれた撮影
会をしめました。(写真掲載)

8/27(土)原宿スーパーよさこい撮影会:雨の中
の演舞を連写。懇親会にてリベンジを検討。

9/24(土)品川宿場まつり撮影会:まず、原美術
館の篠山紀信展を鑑賞。雨が上がり始めるなか、公募
の若き花魁5人が繰り広げる花魁道中を場所を変え激
写。イタリアンでの懇親会も盛り上がりしました。

10/6～10/11第13回楽しい写真展:横浜外人墓地
斜向かいの山手234番館で開催。10/10に講師から出
品作品への暖かい講評を受け、その後、夜の横浜港を
一望するホテルで講師を交えて写真談義に花を咲か
せました。写真展の来場者は約1,100人でした。

11/26(土)花魁ショー撮影会:1か月前に満席に

なるはとバスの人気コースに参加。六本木でベテラン
の花魁らの舞踊ショーを撮影後、副都心の高級すし店
で満腹になりました。

どの企画も各幹事さんの工夫により、撮影技術の向
上と参加者の懇親を深める楽しい活動となったことを
報告いたします。新規入会をお待ちしています



天神峠にて

TOKYO PACK 2016 開催される

2016年10月4日～7日、東京ビッグサイトに
おいて公益社団法人 日本包装技術協会主催の
TOKYO PACK 2016が開催され、18万人を超
す入場者数を数えました。

日本包装管理士会のブースでは、包装管理士
会が創立50周年を迎えたことやIPPの新しい
キャラクター「つつむ君」の展示を行い、国内
外のお客様にご覧いただきました。会場では
IPPの理事をはじめとする会員が、連日ブース
の説明員を担当し、お客様にIPPをアピールし
ました。また、日本包装技術協会と包装関連4
団体が協力して展示した集中企画展示も多くの
来場者を迎えました。日本包装管理士会は、(株)
明治様と雪印メグミルク(株)様にご協力をいた
だき、菓子業界と乳製品業界を担当し、好評をい
ただきました。



IPPのブース アジアのお客様もたくさんご来場



熱心な来場者で賑わう集中企画展示

西日本支部だより ●●●

西日本副支部長 八田 彰 (27期)

2016年11月2日、JPI福岡会場において40名の包装管理士が第51期生として誕生しました。

合格証書授与式では皆さん緊張の趣で受け取られていましたが、その後おこなった懇親交流会では満面の笑みと安どの表情を浮かべておられました。本当にお疲れさまでした。

西日本支部では、授与式にて中村支部長より、合格された皆さんへの慰労の言葉と、これからの研鑽が大事である事、そのためにも包装管理士会に入会し、ともに学んでいきましょと案内をおこないました。懇親会後には15名の皆さんが仮入会を希望されており、来年度には是非正式に入会してくれる事を望んでいます。



「合格証書授与式」



「包装事例研究発表会」

西日本支部ではその他の事業として、JPI,日本MH協会と協賛し二事業で三社の工場見学を開催しました。下記に事業内容を報告します。

「工場見学会」

平成28年9月28日 (水)

①西日本新聞社 製作センター (参加者25名)

住所：福岡市博多区井相2丁目1-30

②アサヒビール(株) 博多工場 (参加者20名)

③懇親会 (アサヒビール園)

住所：福岡市博多区竹下3-1-1



「西日本新聞社工場見学」



懇親会 (アサヒビール園)

「工場見学会」

平成28年10月28日 (金)

三菱ロジスティックス(株)

九州ロジスティックセンター

住所：佐賀県鳥栖市真木町字橋口1940-1

(参加者24名)

「JPI共催事業」

平成28年11月2日 (水)

①2016包装事例研究発表会

②第51期包装管理士 合格証書授与式

③懇親交流会

会場：IPシティーホテル福岡

住所：福岡市博多区中洲5-2-18

今後もJPI西日本支部に協力し、包装管理士会の発展と会員の親睦に努めていきます。

あけましておめでとうございます。

2016年はIPPにとって節目の年でした。創立50周年記念事業を開催し、包装管理士51期生も誕生しました。今号には各地での合格証書授与式や51期包装管理士によるセミナーなどの開催が多数掲載されております。IPPで次に向けて活動の継続と更新が始まっています。

印刷物離れの進む現状ですが、全ての会員の皆様に直接活動の状況をご報告できる媒体として、今後も「ippニュース」発行を継続できるようご協力ください。皆様からの積極的な投稿をお願いします。

編集委員一同会員の皆様方のご活躍を祈念いたしております。

編集委員 井上伸也

日本包装管理士会 / Institute of Packaging Professionals, Japan

e-mail: ipp@pk9.so-net.ne.jp
http://www.ipp.net/

■本部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■北海道支部	〒060-0004	札幌市中央区北一条西2丁目 北海道経済センタービル 北海道生産性本部内	☎ : 011-241-8591 fax : 011-241-3898
■東北支部	〒021-0893	岩手県一関市地主町3-35 株式会社 東北ウエノ内	☎ : 0191-21-4531 fax : 0191-21-5381
■関東支部	〒104-0045	東京都中央区築地4-1-1 東劇ビル10F 日本包装技術協会内	☎ : 03-3543-9250 fax : 03-3543-8970
■中部支部	〒450-0003	名古屋市中村区名駅南4-1-2 17日通ビル2F 日本包装技術協会内	☎ : 052-563-7110 fax : 052-563-7123
■関西支部	〒550-0014	大阪市西区北堀江1-1-27 イマイビル4階	☎ : 090-4305-3906 (携帯・桃川) fax : 06-6606-8768
■西日本支部	〒838-0068	福岡県朝倉市甘木2144-11 中村包装管理士事務所内	☎ : 0946-22-3798 携帯 : 080-5263-2144

----- Copy & FAX 用切取線 -----

日本包装管理士会会員登録データ変更届

■宛先 日本包装管理士会事務局 fax : 03-3543-8970 ☎ : 03-3543-9250

フリガナ	
氏名	会員番号 番 平成 年 月 日届
会社	社名
	所属
	住所 〒
	TEL FAX E-mail
自宅	住所 〒
	TEL FAX
	E-mail